マイライフ

平成26年8月の開所当時より、グループホーム美山を利用されているＩさん（70歳男性）が、住みなれた地域で、自立した生活を取り戻すための活動をご紹介します。

グループホームでの生活をはじめて

平成26年8月、グループホーム美山が開所となり、もともと美山地区に住んでおられたＩさんが、福井市の特別養護老人ホームより転居されてきました。住み慣れた地域で生活することができ、ご家族も通いやすくなるというメリットから転居を希望されたそうです。

入所当時のＩさんは、歩行困難により、ずっと座ったまま生活されることが多い状態でした。そのため、歩行器を使用しての訓練を進めてみましたが、無気力で拒否されることも多く、自宅を近くに感じるせいか「自分で歩いて帰る」と何度か出て行こうとされ、不安定になっていきました。しかし、実際はうまく歩くことができず、座り込んで動けなくなってしまうこともありました。

そんなＩさんのために、奥さんがたびたび来所され話をしてくださいました。また、職員も気分転換になればと、外出する機会を増やしました。すると、月日がたつにつれて帰りたいと訴えることはなくなっていきました。

気持ちの変化

職員と話をすることも増え、他の利用者の方を気にかけてくださるようにもなったＩさんは、いつのころからか「山に登りたい」とおっしゃり、歩行訓練にも参加するようになりました。ご実家が林業を営んでいて、昔はよく手伝いに行っていたとのこと。「また、歩けるようになって、山に登ろうと思ったんだよ」と最近になって、当時の気持ちを教えてくださいました。歩行器を使用しながら、施設内での移動が自由にできるようになってきたＩさん。今では、歩行器を使わず、手すりを使用しながら、短い距離であれば、自立歩行が可能なまでになりました。

自分で見つけた役割

少しずつ歩けるようになり、できることも増えてきたころ、施設内の敷地にある畑仕事に興味を示されるようになりました。ほとんどの職員は畑仕事の知識がなく、地域住民の土田氏や家接（いえつぎ）氏が、ボランティアとして畑仕事に携わってくれています。同じ地域の方とあって、すぐに顔なじみになり、Iさん自身から畑仕事を行うようになりました。Iさんの居室からは畑の様子がよく見えます。朝、起床すると、まず畑を確認し、

必ず水やりを行い、作物の実りが確認できるようになると、毎朝収穫もしてくださいます。いつの間にか、畑の管理が役割になりやりがいとなっていきました。昔は米作りに携わっており、畑仕事については初心者だったとのこと。それでもボランティアの方の力を借り、今ではてきぱきと仕事をこなします。時期がくると畑の世話をしてくれるIさんに、なにか感じていることがありますか？と質問したところ「自分で作ったものが実になれば、それはうれしいよ」と笑顔で答えてくださいました。

その他にも、カレンダーの日付を毎日かえたり、食事の時間には、おしぼりを取ってきたり、施設内のお仏壇には、お仏飯をお備えしてくださいます。地域花壇の水やり活動にも参加され、生きいきと過ごされています。

入所当時は車椅子を使用することもあったIさんが、車椅子利用者の方を押して歩くようになり、排泄も一部介助から自立にかわり、プライドをもって生活されるようになりました。前向きに、できることを増やしながら、自立した生活を取り戻していく姿は、他の利用者の方や、職員にも力を与えてくれています。

奥さんからの言葉

Iさんご夫妻

グループホーム美山で、野菜つくりなどの生きがいを見つけ、本来の自分を取り戻しつつある主人の姿をうれしく思います。これからも元気で明るく過ごしてほしいです。

今回、Iさんの記事作成に携わり、生きがいや目標をもつことで、人はこんなにも変われるのだと改めて思いました。Iさんは、自らの力でできることを見つけ実行していますが、何をしてよいのかわからない方もたくさんいらっしゃいます。誰もがもっているできる力をひきだし、生きがいや、楽しみにつなげていけるようなサービスを提供していきたいです。

「マイライフ」自分らしくあるために。

グループホーム美山　介護職員　川端杏子